

心理社会的治療研究の焦点

岩田 和彦

自治医科大学精神医学教室

【 統合失調症治療における心理社会的治療の重要性 】

統合失調症の治療目標は、精神症状による苦痛を緩和することはもちろんであるが、最終的には社会的転帰を如何に改善させるかという点にあることは言うまでもない。「病院中心から地域ケア中心の精神医療へ」というパラダイムシフトの中で、心理社会的治療の重要性は次第に高くなってきた。米国の The Schizophrenia Patient Outcomes Research Team (PORT) による最新の治療推奨 2003 (Schizophrenia Bulletin, 2004) においても、薬物療法と心理社会的治療の統合により転帰は改善することが明記されており、さらに Family intervention、Supported employment、Assertive community treatment、Skills training などは治療効果が確立しており、かつ実施しやすい心理社会的治療として強く推奨されている。

【 日本の心理社会的治療の現状と問題点 】

臨床現場では社会生活技能訓練 (SST)、心理教育、家族介入などが現在広く普及し、さらに ACT の実践報告も散見されるようになってきた。しかし日本の心理社会的治療は未だ実学的な色彩が強いと言われている。その現状と主な問題点を以下にまとめた。

- 心理社会的治療がどのような機能の改善に効果的なのかが不明確なために、社会機能や治療目標が異なる症例に対して、同じ治療方法を適応していることが少なくない。
- 治療方法の選択や組み合わせ、治療開始時期などを経験論的に決めていることが多く、また治療期間および頻度を症例の機能レベルに合わせて調整することも少ない。
- 治療効果がどの程度現れたかをアセスメントしモニタリングする方法が未確立である。

【 これからの心理社会的治療の発展に向けて 】

上記の問題点を踏まえて心理社会的治療の今後を考えた時、いくつかの研究すべき課題が見えてくる。それらは例えば以下のような内容になるであろう。

- ◇心理社会的治療の開発に関する課題: 既存の治療法をより効果的なものに改良するための方法論的検討／認知機能・脳機能の改善に向けた新しい心理社会的治療法の開発など
- ◇心理社会的治療の実施に関する課題: 個々の認知機能や社会機能レベルに応じた最適な導入時期・治療回数・頻度・期間の検討／治療効果に関する評価尺度の確立など
- ◇心理社会的治療の作用機序の解明: 治療効果の発現に対する脳機能画像・神経心理学・精神生理学的視点からの検討／治療がQOLや病識に与える影響についての検討など
- ◇心理社会的治療と他の精神科治療の統合に関する課題: 薬物療法やその他の精神療法と如何に組み合わせることで相互の治療効果が増強されるかに関する検討など

これら研究から得られた知見によって「エビデンスに基づいたテーラーメイドの心理社会的治療」にどこまで迫れるか、それがこの分野の中心的課題であると演者は考えている。